

■ 概況

12/8~12/14のNYMEX・WTIは、10日のOPECと非OPEC主要産油国の協調減産合意を好感して、50.84~52.98ドルの高値水準で堅調に推移した。

12月15日は、OPEC減産決議を受けた、湾岸産油国国営石油各社による顧客への供給削減通告の報道があり、買いが入ったものの、前日の米FRBの金利引き上げを受け、来年初以降の利上げペースが早まるとの観測からドル高・ユーロ安が進行、ドルで取引される原油の割高感が強まり、小幅安となった。1月限の終値は前日比0.14ドル安の50.90ドルだった。週末16日は、ゴールドマンサックスの2017年第2四半期のWTI価格見通しの上方修正(55→57.50ドル)に対する好感や週末の持ち高調整等による買いが入り、反発した。ただ、ベーカーヒューズ社の米国内石油掘削リグの稼働数増加(510基、前週比12基増)の発表で、上げ渋る場面もあった。1月限の終値は前日比1.00ドル高の51.90ドルだった。

週明け19日は、今週末からのクリスマス休暇を前に、新たな材料に乏しい中、リビア北部のパイプライン再開が延期されたとの報道もあって、小幅続伸した。1月限の終値は前日比0.22ドル高の52.12ドルだった。20日は、今夕と翌日朝の米国官民の在庫報告を前に、原油在庫減少予想(ロイター:前週比250万バレル減)から、3営業日続伸した。この日納合を迎えた1月限の終値は0.11ドル高の52.23ドルとなった。

21日は、この日の米エネルギー情報局(EIA)による米国原油在庫週報が予想外に前週比230万バレル増加したこと、リビアのパイプライン稼働再開の発表で、4営業日振りに反落した。この日から直近限月となった2月限は前日比0.81ドル安の52.49ドルで終了した。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(1月渡し)は、前週50.10~54.00ドルの高値水準で推移した。15日は51.40ドル、16日は51.70ドル、19日は52.70ドル、20日は52.10ドル、7日は52.70ドルで推移した。

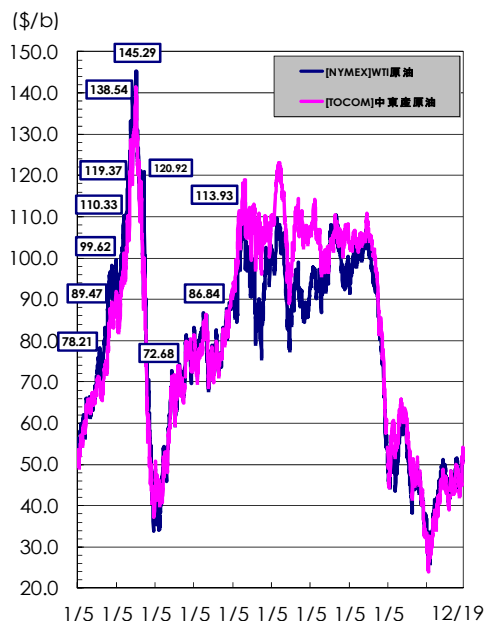
為替は、前週113.77~115.47円と一段と円安方向に推移した。15日は117.72円、16日は118.18円、17日は117.63円、20日は117.18円、21日は117.94円で推移した。

財務省が19日発表した貿易統計速報(旬間ベース)によると、11月下旬の原油輸入平均CIF価格は、中旬比455円上げの33,323円/kl。ドル建てでは49.82ドルで前旬比0.30ドル安。為替レートは1ドル/106.34円。同時に発表された貿易統計速報(月間ベース)によると、11月の原油輸入平均CIF価格は、前月比3,308円上げの32,409円/kl。ドル建てでは49.08ドルで前月比3.91ドル高。為替レートは1ドル/104.99円

主要元売会社の12月第4週に適用するガソリンと中間留分の卸価格は、0.5~1.5円の値上がりとなった。原油価格は値上がりし、為替レートは円安が進行し、原油調達コストは値上がりだった。

そのような中で、12月19日時点の小売価格は、ガソリンが1.6円値上りの129.3円、軽油が1.5円値上りの108.5円、灯油は2.9円値上りの74.6円だった。ガソリンは3週連続の値上がり、軽油も3週連続の値上がり、灯油は10週連続の値上がりだった。この週(12月第3週)の原油コストは値上がりし、元売の卸価格は全社1.5~3.0円の値上げになった。

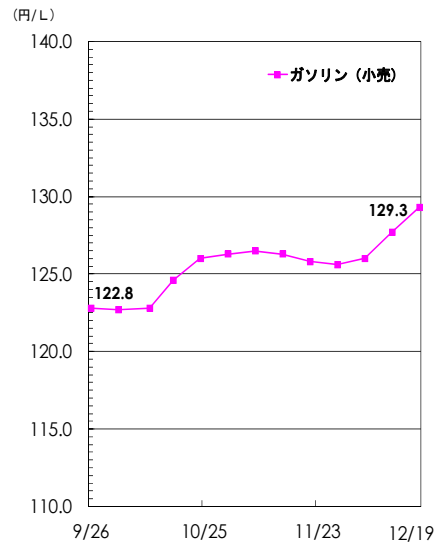
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	12/11 ~ 12/17	4,036 ▲133	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	95.7 ▲3.2	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	12/17	14,322 ▼-181	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	12/19	52.68 ▼-1.49	▲ 20.5
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	12/19	52.12 ▼-0.71	▲ 17.4
	原油CIF単価 (\$/bbl)	11月下旬	49.82 ▼-0.30	▲ 2.32
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	33,323 ▲455	▼ -2,890
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	106.34 ▼-2.08	▲ 14.87
	外国為替TTSレート (¥/\$)	12/19	118.63 ▼-2.16	▲ 3.65



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	12/11 ~ 12/17	1,061 ▼ -36	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	979 ▼ -4	▼ -	
	輸出	"	96 ▲ 72	▲ -	
	在庫	12/17	1,693 ▼ -15	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	12/13 ~ 12/19	47.9 ▲ 1.0	▲ 8.9	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	12/13 ~ 12/19	48.8 ▲ 0.6	▲ 9.9
		(TOCOM/中部)	12/19	49.9 ▲ 1.9	▲ 11.4
	小売 [週動向] (資工庁公表)	12/19	129.3 ▲ 1.6	▲ 5.8	

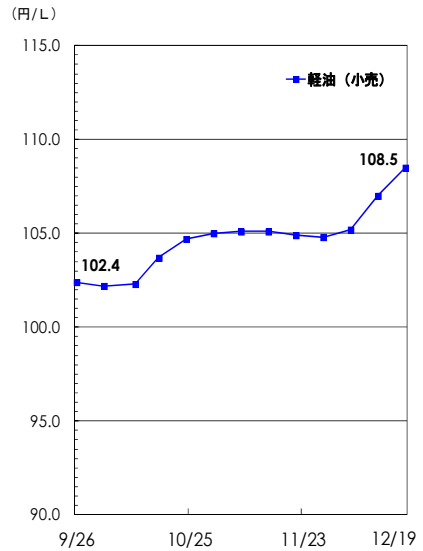
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

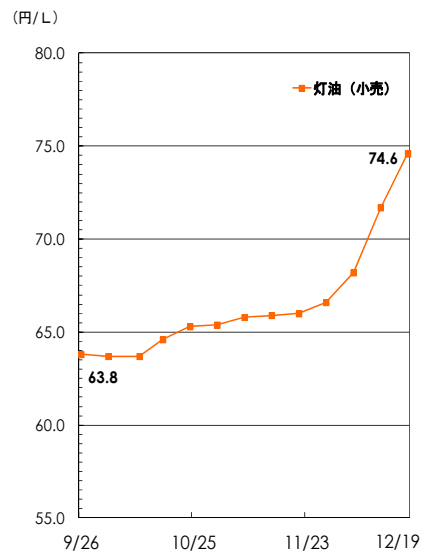
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	12/11 ~ 12/17	785 ▼ -15	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	645 ▲ 47	▲ -	
	輸出	"	200 ▲ 133	▲ -	
	在庫	12/17	1,554 ▼ -61	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	12/13 ~ 12/19	49.1 ▲ 1.2	▲ 4.3	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	12/13 ~ 12/19	46.0 → 0.0	▲ 9.3
		(TOCOM/中部)	12/19	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	12/19	108.5 ▲ 1.5	▲ 2.2	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	12/11 ~ 12/17	490 ▲ 58	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	512 ▲ 20	▲ -	
	輸出	"	46 ▲ 46	▲ -	
	在庫	12/17	2,106 ▼ -67	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	12/13 ~ 12/19	55.0 ▲ 1.3	▲ 17.9	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	12/13 ~ 12/19	54.2 ▲ 1.3	▲ 17.4
		(TOCOM/中部)	12/19	54.6 ▼ -0.5	▲ 18.1
	小売 [週動向] (資工庁公表)	12/19	74.6 ▲ 2.9	▲ 4.0	



■ 関連情報

1 海外/原油

21日のNYMEX市場WTI原油は、前日夕刻の米石油協会(API)の週報で、予想(ロイター:250万バレル)以上の原油在庫減少(前週比410万バレル減)が見られたことから、買いが進んだが、同日午前発表の米国エネルギー情報局(EIA)の週報が、米国原油在庫の予想外の増加(230万バレル増)を報告したため、売り込まれた。さらに、OPEC減産の対象外であるリビアが同国内のパイプラインの稼働再開を発表し、増産方向にあることが認識され、4営業日振りに反落した。この日から直近限月となった2月限の終値は前日

比0.81ドル安の52.49ドル、3月限の終値は前日比0.81ドル安の53.38ドルだった。

EIAによると12月19日時点のガソリンの小売価格は全米平均で前週比2.8セント値上りの1ガロン2.264ドル(70.9円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比3.4セント値上りの2.527ドル(79.1円/ℓ)。ガソリン、ディーゼル共に3週連続の値上がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、12月11日～17日に休止したトッパー能力はなく、前週に比べて7.0万バレル増加。(全処理能力は379.0万バレル/日)。

原油処理量は403.6万klと、前週に比べ13.3万kl増加。前年に対しては21.1万klの増加。トッパー稼働率は95.7%と前週に対して3.2ポイントの増加、前年に対しては8.0ポイントの増加となった。

生産は前週に比べて灯油、C重油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/3.3%減、ジェット/8.2%減、灯油/13.3%増、軽油/1.8%減、A重油/0.5%減、C重油/5.7%増。今週のC重油の輸入は8.8万kl(前週比1.9万kl増)。軽油の輸出は20.0万kl(前週比13.3万kl増)。

出荷(販売量)は、前週比ではガソリン、C重油が減少し、その他の油種で増加した。前年比でもガソリン、C重油が減少し、その他の油種で増加した。原油価格の値上がりが続く、小売価格は3週連続で値上がりとなる中、ガソリンの出荷は97.9万kl(対前週0.4%減)と2週振りに前週比で減少、2週振りに前年比で減少となり、3週連続で100万klを下回った。

ジェット16.2万kl(対前週61.8%増)、灯油51.2万kl(対前週4.1%増)、軽油64.5万kl(対前週7.9%増)、A重油28.2万

kl(対前週8.7%増)、C重油31.1万kl(対前週11.8%減)。

(単位:千kl)

	今週 (12/11 ~ 12/17)	前週 (12/4 ~ 12/10)	前週比
ガソリン	979	983	▼ -4 (-0%)
ジェット燃料	162	100	▲ 62 (62%)
灯油	512	492	▲ 20 (4%)
軽油	645	598	▲ 47 (8%)
A重油	282	260	▲ 22 (8%)
C重油	311	353	▼ -42 (-12%)
合計	2,891	2,786	▲ 105 (4%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

12月17日時点の在庫はA重油、C重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しては全油種で取り崩しとなった。

ガソリンは169.3万kl、前週差1.5万kl減。前年に対しては1.6万kl少ない。

灯油は210.6万kl、前週差6.7万kl減。前年に対しては85.3万kl少ない。

軽油は155.4万kl、前週差6.1万kl減。前年に対しては11.4万kl少ない。

A重油は72.2万kl、前週差0.9万kl増。前年に対しては7.3万kl少ない。

C重油は188.4万kl、前週差4.6万kl増。前年に対しては22.2万kl少ない。

(単位:千kl)

	今週 (12/17)	前週 (12/10)	前週比
ガソリン	1,693	1,708	▼ -15 (-1%)
ジェット燃料	867	918	▼ -51 (-6%)
灯油	2,106	2,173	▼ -67 (-3%)
軽油	1,554	1,615	▼ -61 (-4%)
A重油	722	713	▲ 9 (1%)
C重油	1,884	1,838	▲ 46 (3%)
合計	8,826	8,965	▼ -139 (-1.6%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

12月13日から12月19日までの原油コストは、原油価格は値上がり、為替レートは円安で、原油コストは引き続き値上がりで見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン101～102円台、軽油48～49円台、灯油54～55円台で引き続き堅調に推移した。海上スポット価格は、ガソリン101円台、軽油48～49円台、灯油54～56円台、先物価格はガソリン102～103円台、軽油46円台、灯油53～54円台で一般的に下値が改善傾向にある。元売の卸価格は0.5～1.5円の値上がりだった。

EMGマーケティングは12月22日、12月24日以降出荷分の陸上外販スポット価格について、全油種とも1.0円値上げ

する旨を通知した。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

原油コストが値上がりし、卸価格も引き上げられたことから、製品スポット市況は堅調を続けた。週間のガソリン販売量は90万kl台で、前年同期も下回った。

12月第4週(12月22日～12月28日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(12月13日～12月19日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは1.0円、灯油は1.3円、軽油は1.2円の値上がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが0.9円、灯油は0.6円、軽油は0.4円の値上がりだった。先物価格は、ガソリンが0.6円、灯油が1.3円の値上がり、軽油が横ばいだった。原油価格は値上がり、為替は円安で、原油コストは値上がりとなり、製品スポット価格も引き続き全般的に堅調を続けた。

12月第4週の大手元売の卸価格は、0.5～1.5円の値上がりだった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM)		(単位: 円/%)		
[陸上ローリー4地区平均]		今週 (12/13～12/19)	前週 (12/6～12/12)	前週比
スポット価格	レギュラー	47.9	46.9	▲ 1.0
	灯油	55.0	53.7	▲ 1.3
	軽油	49.1	47.9	▲ 1.2
(TOCOM)		(単位: 円/%)		
[期近物/終値] [平均]		今週 (12/13～12/19)	前週 (12/6～12/12)	前週比
先物価格	レギュラー	48.8	48.2	▲ 0.6
	灯油	54.2	52.9	▲ 1.3
	軽油	46.0	46.0	→ 0.0

※上記価格は税抜き価格

参考値 (12/13～12/19実績値)		(単位: 円/%)	
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 1.0	▲ 0.6	▲ 0.8
灯油	▲ 1.3	▲ 1.3	▲ 1.3
軽油	▲ 1.2	→ 0.0	▲ 0.6
A重油	▲ 1.2		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

12月19日時点におけるSS店頭価格は、ガソリンが前週比1.6円値上がりの129.3円、軽油が前週比1.5円値上がりの108.5円、灯油は前週比2.9円値上がりの74.6円だった。ガソリンは3週連続の値上がり、軽油も3週連続の値上がり、灯油は10週連続の値上がりとなった。

都道府県別の動向として、ガソリンの値上がりは46都道府県、横ばいは1県、値下がりはない。都道府県別のガソリンの全国最安値は、埼玉県(124.8円(前週比1.6円高))、次が千葉県(125.3円(同1.8円高))だった。最高値は長崎県の137.9円(同2.2円高)だった。都道府県別で、最も値上がりし

たのは前週比3.1円高の石川県(131.1円)、値下がり県はなく、横ばいが高知県(128.6円)だった。

原油コストは値上がりし、3週連続でガソリン小売価格は値上がりした。今週の元売会社の卸価格は0.5円から1.5円の値上げだった。原油価格は値上がりし、為替レートもさらに円安が進行、原油コストは値上がりし、元売会社が卸価格を引き上げたため、次週のガソリン・灯油の小売価格は値上がりが見込まれる。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/%)		
		今週 (12/19)	前週 (12/12)	前週比
小売価格	レギュラー	129.3	127.7	▲ 1.6
	灯油	74.6	71.7	▲ 2.9
	軽油	108.5	107.0	▲ 1.5
				直近高値
				08/8/4 185.1
				08/8/11 132.1
				08/8/4 167.4

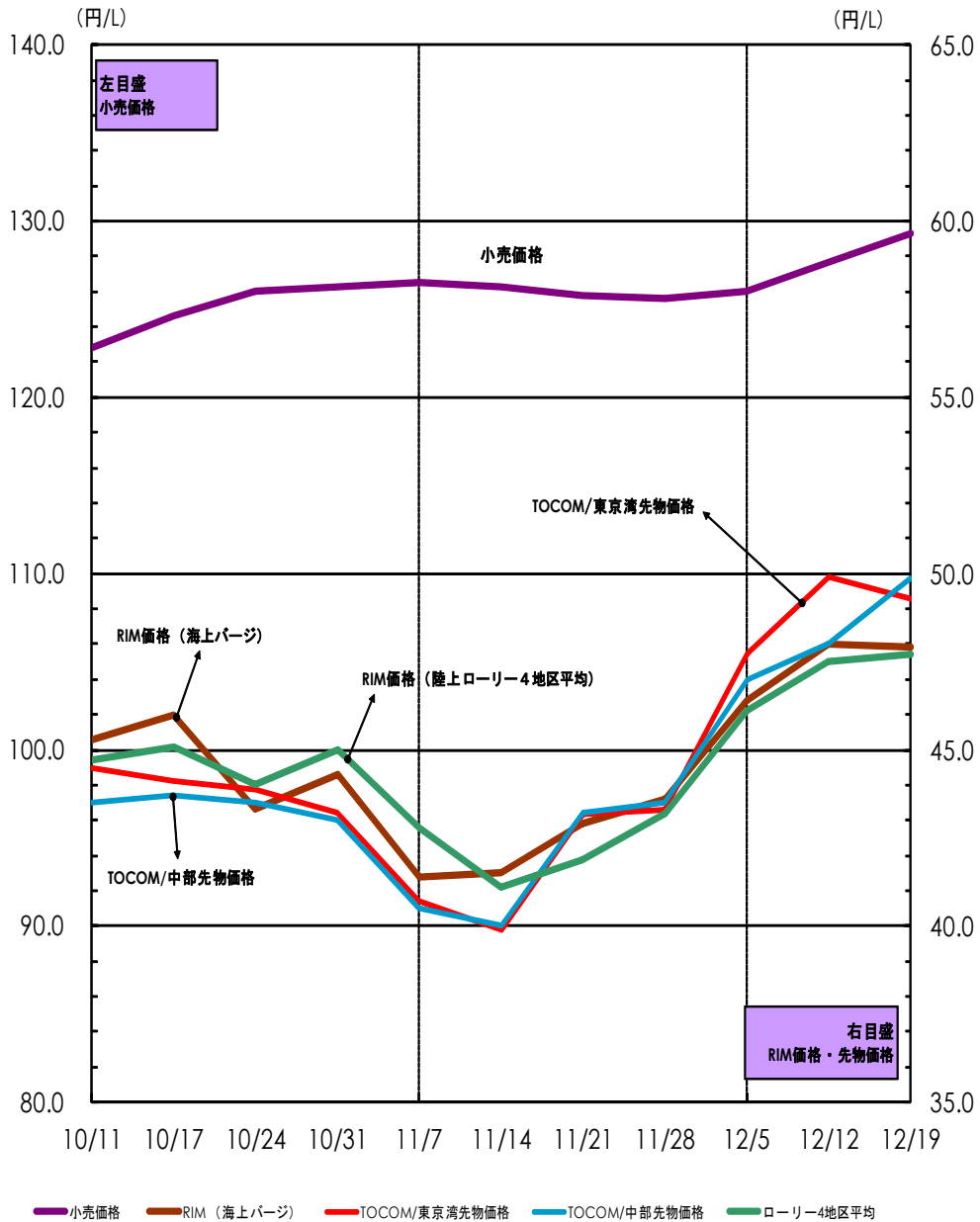
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2016/10/11 ~ 2016/12/19)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2016第38号)の公表は、1/6(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成28年3月末現在)は、8月3日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange: NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange: TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate: 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。